

掘削用機械を起因物（小）とする死傷災害発生事例（2017年）

年	月	発生時	死傷災害発生事例	年齢	業種（小）	事故の型	労働者規模
2017	1	11～12	防潮堤災害復旧工事現場で、防潮堤背面にバックホウを用いて盛土作業中、退避していた被災者（防潮堤端部の均し作業）が、まだバックホウが後退してこないだろうと思い後退路に入り、足を滑らせ転倒したところ、後退してきたバックホウに足を踏まれた。	64	30111	7	—
2017	1	9～10	事故現場から60メートル程度離れた場所で除雪作業をしていた被災労働者が、採石場の上で土手を作る作業をしていた油圧ショベルに、何らかの理由で接近し（被災労働者死亡の為不明）オペレーターがこれに気付かず、油圧ショベルを走行させ被災労働者を轢いてしまった。	60	20201	7	1～9
2017	1	2～3	推進工事における両発進立坑GL-H=9.3mの立坑内において、底板の掘削作業中にクラムシェルに掘削土をスコップにて直接積込作業をしていた。同時にクラムシェルのオペレーターは合図を受けるため車外に出ており、合図を受けクラムシェルに乗り込み、安全レバーを上げる際、操作レバーに触れ、旋回の誤操作を起し、本来上に向かっていくはずのバケットが掘削していた作業員に向かって動き、足を挟まれ被災した。	59	30110	7	1～9
2017	1	10～11	覆工坂を開けて掘削作業中、操作者が掘削溝内を確認しようとバックホウを前進した時にバランスを崩し傾き、バケット部分が掘削溝内に居た作業員に接触して転倒し、バケットと地面の間に挟まれた。	62	30199	6	1～9

2017	1	13～ 14	私道下水管敷設工事現場において、ミニショベルを操縦し掘削作業を行っている際にバランスを崩してミニショベルが転倒し、地面とミニショベルの間に挟まり負傷する。	46	30209	2	1～9
2017	1	11～ 12	店舗新築工事に於いて、既存構造物の解体工事中に大型0.7?バックホーに装着していたアタッチメントの油圧ブレーカーから大割破砕機に取り替えのため、接続用ピンを銅棒にて打撃挿入した際、挿入部に付着していた鉄片が打撃の反動で目に飛散して負傷した。	44	30201	4	1～9
2017	1	11～ 12	タイヤショベル0.5?を運転作業中、左側のドアから乗車して開いたままドアロックをしないでバックした時、勢いよくドアが閉まった時、左手をボディに添えていた為、ドアとボディに挟まれ左手小指を骨折した。	52	150109	7	10～ 29
2017	1	6～7	構内で焼却炉のメンテナンス中に焼却炉のゆがみを直そうとした時、誤って焼却炉の部品が飛んできて負傷した。	23	150102	4	1～9
2017	1	10～ 11	当社で受注した送水管工事において、当日の朝から新設の鑄鉄管を布設（1本目）し、在来土にて埋戻を行っていた。被災者は、埋戻用の土砂（在来土）を土砂置場より4tダンプで運搬しバックホーの後方に停車しバックホーのオペレーターがバックホーにて4tダンプの荷台から土砂をすくい鑄鉄管の布設されている開口部へ埋戻を行っていた。バックホーのオペレーターが、被災者の4tダンプより土砂を4～5回すくい埋戻を行い、再度4tダンプの荷台から土砂をすくう為、開口部から右旋回したところ、被災者が田の畔に立っているのに気づかず、バックホーのバケット底部と被災者の頭頂部が接触し被災した。	62	30203	6	1～9
2017	1	10～ 11	資材置場にて資材の整理作業（下請）中、重機のキャタピラーから飛び降りた際、足元の不安定な所に落ち、左足踵を負傷した。	67	11209	3	—
2017	1	16～	負傷者が現場作業道具を片付中、後退してきたバックホーキャタ	40	30106	7	—

		17	ピラーに足甲部を轆かれ負傷した。				
2017	1	11～ 12	敷地内でショベル等にグリス指しを行っているとき、2m位の所から足を踏み外し落下し、腰を打ってしまった。	70	60101	1	1～9
2017	1	14～ 15	当事業場にある鉄工ヤード内において、天井クレーンの稼働域上に、天井から垂れ下がり障害となっていたブレースを外すため、被災者が油圧ショベルのバケット背に乗り、ブレースをガス切断していた。その際、切断したブレースが油圧ショベルの運転者へ落下し、それを振り払った手が操作レバーに触れ、油圧ショベルが大きく旋回し、バランスを崩した被災者が足から落下し負傷した。	54	70101	1	10～ 29
2017	1	11～ 12	水道の送水管埋設工事中、バックホーのバケットが貫通棒からすべり、不用意に本人がバックホーに近づき、左足小指の甲に当たり開放骨折した。	36	30199	7	1～9
2017	1	13～ 14	樹木栽培場で樹木伐採し、伐根をミニショベルで作業中に樹木根元で屈んで作業していたところ、ミニショベルをクローラ作動した時、屈んで作業していた作業員が上を確認せず立ち上がり、バケット横に側頭があたり負傷した。エンジン音のため、重機運転者も大きな声掛けができない状況であった。	33	30199	3	1～9
2017	1	10～ 11	山の伐採中、作業道造成の際にユンボの片キャタが滑り、アームを着いたが操作ミスをし、下まで転落した。	64	30302	1	—
2017	1	10～ 11	道幅の狭い道路上で、パーカッションオーガにて岩盤掘削中、掘削深度が不足したため、パーカッションオーガに中継ぎ部を取り付ける際、連結ピンを抜いた穴に指を挿入し挟まれた。	43	30301	7	50～ 99
2017	1	11～ 12	牧場内で、パワーショベルのグラップル（爪）を使用し、オイルの入っていた空のペール缶を潰す作業をしていた。作業中に缶が爪にはさまり、被災者が手袋をはめて缶を爪から蹴って外していた。その際、バランスを取るためグラップルの支点の部分に手を置き作業していたが、重機の運転手からは見えておらず、蹴りや	22	70101	7	1～9

			すいように少しグラップルを広げたところ、支点に指を挟みこみ、右手指を負傷した。なお、運転手は重機運転に関する免許は持っていなかった。				
2017	2	10~11	マイナス4m岸壁上で、防舷材取付作業をしている時、バックホウの操作をしていた者が上半身を動かし左右確認の時、肘がレバーに接触し、バケットが50cm~60cm落下しバケット下の作業員に接触した。背中を強打し顔面及び胸を上部コンクリートに強打した。	25	30111	6	1~9
2017	2	10~11	マイナス4m岸壁上で、防舷材取付作業をしている時、バックホウの操作をしていた者が上半身を動かし左右確認の時、肘がレバーに接触し、バケットが50cm~60cm落下しバケット下の作業員に接触した。背中を強打し顔面及び胸を上部コンクリートに強打した。	19	30111	6	1~9
2017	2	16~17	産業廃棄物を処分場所有地に搬送し荷卸し作業が終了したので、本人はトラックを前進させ下車してトラック後部で作業していた際、他の作業員が運転するユンボに左足を挟まれ負傷した。	50	30202	7	1~9
2017	2	13~14	分水プール給排水設備改修工事現場に於いて、掘削穴2.3m深の穴の中で配管作業中、掘削穴地上プールサイドで杭打ち及び川砂埋戻し作業中のバックホーが横転してきたため逃げる際、バックホーのアームとバケットが右肩と腰に接触して負傷した。	44	30302	4	10~29
2017	2	13~14	分水プール給排水設備改修工事現場に於いて、掘削穴2.3m深の穴の中で配管作業中、掘削穴地上プールサイドで杭打ち及び川砂埋戻し作業中のバックホウが横転してきたため逃げる際、サポートのアームとバケットが右肩と腰に接触して負傷した。	35	30302	4	10~29
			新築中アパートの外構工事の不整地にて、可変脚仕様のバックホウ（0.05?型）でキャタピラ幅を最小にして前進し作業場所到着後にキャタピラ幅を拡げる操作をしていた。当該場所は水道管等の埋設が終了直後の軟弱地盤である為、キャタピラ幅を拡げるため				

2017	2	10~11	車体を支えていた排土板の左下が軟弱地盤に潜り込んだ。車体が左側に傾いた為、運転手が隣地境界のコンクリート擁壁（H≒40cm）下に投げ出され、擁壁天端に右足のみ乗っていたところバックホウが倒れてきて挟まれた。	36	30199	2	1~9
2017	2	11~12	弊社工場内で、コンクリート塊破碎作業をし、重機から降りる時に足元が滑り、足をねじり受傷した。	68	10909	19	1~9
2017	2	16~17	当社工場作業所内において、オペレーターはパワーショベルを使って収集ごみの整理処理中、突然同重機エンジンがオーバーヒートにより異音と共に停止してしまった。このため停止後、約30分程度経ったところで重機補助作業員はラジエーターに水の補給を考えながら、ラジエーターの蓋に触った途端に上記が噴き出て両手甲部に蒸気があたり火傷を負ったものである。	41	150102	11	10~29
2017	2	14~15	バックホウで、原木を移動させるために被災者が原木にロープをくくっている時にバックホウのバケットが当たった。	76	30199	6	1~9
2017	2	11~12	梅林で梅見のシーズンの準備として油圧ショベルで園内の整地作業を行っていた。災害の現認者がいないため正確な発生状況は不明である。油圧ショベルは発見当時、エンジンがかかり、ギアも入った状態であった。	77	60101	7	1~9
2017	2	16~17	組立2課1係昇温浄油（ブラッシング）工程において、被災者がVi020（2tバックホー）を所定位置に滞留機が置いてあった為、その付近に停車させ本機から降車した時、後ろから出荷検査員（契約社員）が運転するVi055（5tバックホー）がバックして来て、Vi055のブレード（排土板）とVi020のクローラの間で左足を挟まれ負傷する。	48	170101	7	100~299
2017	2	16~17	組立2課1係昇温浄油（ブラッシング）工程において、被災者がVi020（2tバックホー）を所定位置に滞留機が置いてあった為、その付近に停車させ本機から降車した時、後ろから出荷検査員が運	48	11301	7	500~

			転するVi055 (5tバックホー) がバックして来て、Vi055のブレード (排土板) とVi020のクローラの間で左足を挟まれ負傷する。				999
2017	2	16~17	道路の舗装工事でバックホウが稼働しているところに近寄り過ぎ、その上、足を滑らせた為にバックホウと接触して左足を負傷してしまった。	24	30106	6	10~ 29
2017	3	10~11	バックホー整備中、燃料エレメント交換中、工具が外れ体のバランスを崩し落下 (1m) 、右手を地面についた。	44	40301	1	10~ 29
2017	3	9~10	コンクリート土間の路盤を製作のため残土をバックホーでダンプに積み込み作業を行っていた。残土を積み込みブームを旋回中、バックホーが横転し、バックホーの屋根の一部に首を強打した。	51	30199	2	1~9
2017	3	14~15	下水道管引込工事のため、重機で残土を掘削作業中、バケットを旋回した際に穴の側に平行に置いてあった鑄鉄管 (Φ200×5m) の先端部分にバケットがぶつかり、その反動で管の反対側が足にぶつかり、そのため足を取られて深さ1.9mの穴の中へ転落した。その際、首のムチ打ち、腰の打撲、左足ふくらはぎ打撲の怪我をした。	57	30202	1	30~ 49
2017	3	16~17	側溝清掃作業中、使用機械BF015の状況はエンジン、アイドル状態で安全レバーはロック状態であった。作業開始時、オペレーターの着用していたトラチョッキに操作レバーが引っかかっているのに気づかず安全レバーを下げた。BF0.15はアイドル状態であったため、ゆっくり旋回をして作業員の左側の足腿に接触し、ブロック側に押され、その際に作業員が持っていたスコップが股の間に挟まり、接触した反対側の右側の恥骨にひび、骨折を負った。	65	30309	6	10~ 29
2017	3	15~16	資材置場で杭打ちをしているとき、単管パイプを左手で押さえて重機で投げ打つときに重機のバケットと単管パイプの間に左手親指先を挟み骨折した。	66	150109	7	10~ 29
			支店内の工場の洗車場で油圧ショベルの洗車中、油圧ショベルの				

2017	3	16~17	履帯（クローラ）部分で足を滑らせたため左足を履帯部分に巻き込み、左足の親指・人差し指・中指を切断した。	37	80409	2	10~ 29
2017	3	14~15	重機・資材置場にて、タイヤショベルのドアを閉めて降りる際に、雨が降っていたので滑ってしまい、後ろ向きに転倒して腰部と右手関節を強打し、痛みとしびれがひどく歩行も困難になった。	68	30110	1	1~9
2017	3	10~11	被災者は幅が狭い道路にて、住宅保守工事の警備業務中、工事用車両（バケット、以下バケット）の側で歩行者及び車両誘導を行っていた際、軽車両の運転手から道路を通行しようとしたが、道路幅が狭く、バケットがあることで通れないと言われたため、バケットを移動させ、被災者も移動した。被災者がバケットの側へ向かったときに軽車両がバックし、被災者の左足首にタイヤが当たり負傷した。	66	170201	6	50~ 99
2017	3	15~16	残土場で残土受け取り作業中、河川の広い場所で踏み固め作業中にバックホウが転倒し、負傷した。	63	30199	2	10~ 29
2017	3	17~18	当社内木くず処理作業場において、油圧ショベル（ユンボ）による作業を終え、ユンボから降りる際にステップに足が引っ掛かり転倒し、1m程下に転落した。両膝を強打した際、特に右膝を側溝の角にぶつけてしまい、右膝蓋骨骨折を負った。	33	10409	1	1~9
2017	3	13~14	自社所有の畑において、道路舗装工事をしていたところ、コンクリートの表面仕上げをコテで作業していた被災者が、近くで地均しをしている重機（ユンボ）の作業範囲内に立ち入ってしまった。戻ろうとした際、ユンボの動きに間に合わず左足ふくらはぎを強打し、左足首骨折および左足脛ひびを負った。	62	30199	6	10~ 29
2017	3	16~17	ユンボで鉄パイプをつかむ作業をしてる時、鉄パイプがすべる為それを支える時に鉄パイプがすべり、左の足の甲にあたり、左足の人差し指の骨にヒビが入った。	44	30309	4	10~ 29

2017	3	11~12	工場内250mレベルで、ベンチ幅4mの通路上を他のパワーショベルのキャタピラー取付作業の応援のため、パワーショベルにて移動中、ズレ石により2m程度盛り上がった部分を乗り越えて下る途中で、パワーショベルがバランスを崩し、進行方向左の崖側に転倒し、崖の途中でとまった。その際に腰椎圧迫骨折および打撲、打ち身を負った。	55	20201	1	10~ 29
2017	3	14~15	被災者が路上でユンボの誘導をしていたとき、通行人がユンボの近くに入ってきてしまったため、注意を促そうとした際にユンボがバックしてきてしまい、キャタピラーが被災者の右足を挟み負傷した。	63	170101	7	30~ 49
2017	3	14~15	堀削土10tDTに積込作業中、土がなくなり、少し段差のある所を重機で登り土をかき集め、そのまま後進してしまい段差で天秤状態になり、半回転して転倒した。ブームを引き寄せて重心が重機の真上に行き、転倒しやすい状態に重機があった。	43	30199	2	10~ 29
2017	3	14~15	建設機械を使ってコンクリートをはがす作業中、建設機械の作業を補助するため近くではつりをしていたとき、バケットが跳ね上がり接触して負傷した。	41	30199	6	30~ 49
2017	4	17~ 18	弊社所有の敷地内において、作業後に重機（バックホー）から降りる際、クローラーシューから（クローラーシューから地面までは約90cm）とび降りたため骨折した。	58	20202	3	10~ 29
2017	4	15~ 16	社内の作業置場で資材等の片付けのため重機（ショベルカー）を使用していたが停止中であつた。被災労働者が後方から近寄り、指示を仰ぐとオペレーターに声をかけた際、それに答えようとオペレーターが中腰で立ち上がり、上着のベストの一部が走行レバーに引っ掛かって重機が後方に動き出してしまった。被災労働者は重機を避けることが出来ず、重機の右後方部分のキャタピラ2枚程度の箇所です足の甲を轢いてしまった。	44	170209	7	1~9
			資材置場にて、バックホーを使用し水道管を移動させた際に、吊				30~

2017	4	8～9	り荷と吊り荷の間に手を巻き込み、右手中指と薬指を損傷した。	72	30110	7	49
2017	4	14～15	工事帯内から道路上の一般車両の流れを確認していたところ、バックしてきたユンボが被災警備員に気づかず、被災警備員の右足に乗り上げ負傷した。	47	170201	6	50～99
2017	4	16～17	資材置き場でワイヤを鉄箱に入れている時、近くで作業していた重機が鉄スクラップに接触し、鉄スクラップが落下した。それを避けようとして、地面に頭と肩を打ってしまった。	70	150102	4	1～9
2017	4	14～15	PC350バックホーの給油依頼を受け現場給油終了後、バックホーからおりる際にステップを踏み外し、地面へ腰から落ち腰椎圧迫骨折をした。	56	30199	1	30～49
2017	4	8～9	現場敷地内、K-1調整池にて重機（BF0.7?）移動時、重機足元が滑ったものと推測される。その際、一段下がっている水深1m程度の池へ運転席（キャビン）側より転倒し運転席全体が水没した。乗降口は左側で、転倒時池底で塞がったため脱出が出来なかったと思われる。	40	30199	1	30～49
2017	4	13～14	木造家屋解体工事現場にて、小型バックホウで柱を引っ張った際に、倒れた柱の端部とレバーとの間に左手が挟まれた。	73	30202	5	1～9
2017	4	8～9	倉庫で50cm×1mほどの長さの鉄板に張り付いていた段ボールをはがすため、被災者が鉄板を右手に持ち、作業者がユンボのショベルで段ボールを挟もうとしたとき、持っていた右手の親指も挟み親指を骨折した。	35	150109	7	1～9
2017	5	7～8	被災者は作業現場で移動のため走り出したところ、柔らかい山砂の上に上がったため、ズルズルと右側に傾き、横倒しとなってしまった。運転席側のドアが下になったことで、右側のドアから脱出できず、左側のドアは重くて動かせなかったため、前面の窓を開けて脱出した。運転席から脱出した被災者は、バックホウから飛び降りた時、たまたま硬い地盤の所に着地したため、両足踵を	36	40301	3	100～299

			損傷した。				
2017	5	11～ 12	河川内の河岸整備工事現場にて、仮囲いフェンス撤去の為、バックホウにて周囲の雑草除去の為に表土のすきとり作業を行っていた。バックホウを運転していた被災者が、重機から降りようとしてシートベルトを外し、立ち上がった時に突然気を失い運転席より転落し、頸椎を骨折した。	43	30107	1	10～ 29
2017	5	7～8	本社置場内において、スクリュウの荷卸しのためバックホーで吊り上げて移動している際、荷振れしてバックホーの運転席に接触しそうになったため、スクリュウを止めようと反射的に手を出してしまい、スクリュウとバックホーのフレームに指を挟み負傷した。	22	30199	7	50～ 99
2017	5	16～ 17	道路改良工事の現場にて、バックホウの排土板に足をかけて乗ろうとした際に滑って地面に転倒し、右肩を負傷した。	72	30105	2	10～ 29
2017	5	11～ 12	廃棄物分別作業場にて、ダンボールをメッシュパレットに詰める作業中、重機で持ち上げられたメッシュパレットが落下して、右足の上に落下した。	39	30199	4	50～ 99
2017	5	14～ 15	側溝工事作業現場で吊荷作業中、吊荷が中心より横ブレを起こし、吊荷に体が押されて掘削してあった90cm下に落下し、左足を骨折した。	46	30106	1	10～ 29
2017	5	8～9	病院解体工事の際、バックホー（0.45?クラス）がコンクリート殻を移動しながら集積していた際、バックホーの後方にあったゴミを拾おうとしたのに気付かずにバックホーがバックし、右足の上をキャタピラが踏んでしまった。	44	30209	7	1～9
2017	5	10～ 11	自社にて、事務所雨水配管工事に使用する重機をトラックに積載中、重機の運転操作を誤り横転した際に、右足首を捻り負傷した。	26	30110	1	1～9
		14～	ミニコンボで掘削している時に、バケットの前で背中を向けて、				

2017	5	15	跪いて柵を設置し始めたときに誤ってバケットを伸ばし、足に当たった。	64	30203	6	1～9
2017	5	15～ 16	木造家屋解体工事の現場にて、解体材の積込作業を重機にて行っていたところ、搬出運搬用のダンプの後方で搬出準備作業をしていた被災者がいたにもかかわらず、重機のオペレーターが後方確認をせずに重機をバックさせたため被災者を倒し、キャタピラで被災者の太ももまで乗り上げ、右もも及び右脛の骨を骨折した。	27	30209	7	10～ 29
2017	5	10～ 11	山林内で立木を伐採中、バックホウのバケットが立木に引っ掛かり、バックホウが傾きかけたので慌てて降りようとした時、膝を強く捻った。	33	30106	19	1～9
2017	6	11～ 12	道路工事の片側交通誘導警備中、工事現場からバックフォアが道路上の工事箇所に出るため誘導を行った。バックフォアが停止したことを確認し、そのまま片側通行規制の交通整理に戻り立哨していたところ、そのバックフォアが道路上で曲がりきれず方向転換しようとした時に、警備員が近くにいたことに気がつかず、右足付近にバックフォア右側後部のキャタピラーが接触し負傷した。	65	170201	6	10～ 29
2017	6	13～ 14	平屋建鉄骨倉庫の解体工事中、バックホーで、パレット（1.3m×1.3m）に載せた水タンク（1m×1m×1.2m、容量300kg位）を4本のワイヤーで吊り上げた（高さ約1.5m）ところ、落下した。その際、被災者の鼻部に当たり、負傷した。	49	30209	4	1～9
2017	6	14～ 15	新築工事にて、擁壁の捨てコン打設作業中、不足の生コンを会社に無線で連絡し、車から降りる際、旋回した重機の後方と車のドアの間に身体が挟まれ、腰・臀部・太ももを打撲し負傷したものである。	38	30201	6	10～ 29
2017	6	9～ 10	最終沈殿池北西外周部にて、ブルーシートを折り畳む作業をしていた（推定）際に、バックホウに対して後向きに作業を行っていた為、バックホウの移動に気付かず、移動してきたバックホウの	68	30199	7	30～ 49

			キャタピラの下敷きになった。				
2017	6	12～ 13	重機に給油をしようとしている際、右手で手すりを掴み、左手で給油のホースを受け取ろうとした時、雨のため掴んだ右手が滑り、重機のステップ（高さ1m）から転落した。	52	20201	1	10～ 29
2017	6	17～ 18	重機置き場において、油圧ショベルのアームシリンダー取付作業中に、ブームの上からバランスを崩し転落し、両足踵を骨折した。	48	80409	1	10～ 29
2017	6	15～ 16	舗装現場町道でユンボはセメント処理（不陸整正）、被災者はその後方で地盤を均す手作業中、ユンボとの間隔があまりなかったことと、もう一台のユンボが作動中で、被災者はバックしてくるユンボの音に気付かず、接触し事故に至った。ユンボ運転手の周りの安全確保と、被災者の機械作業エリアへの接近が原因と思われる。	47	30106	6	10～ 29
2017	6	8～9	盛土の現場において、地盤改良のセメント攪拌作業のため、バックホウバケットでの攪拌を指示していたが、指示に従わず、フォーククローに交換しようとしてバケットを外し、クローに交換中、クローが突然開き、被災者の左足にぶつかった。その際、安全靴を着用していたが、甲に当たった。	58	30109	6	1～9
2017	7	13～14	トラックの荷台に油圧ブレーカーを積み込む際に、吊っていたバックホーがバランスを崩し、前方に転倒、その際にバケットに腕を挟まれ負傷した。同時にコンパネに足も挟まれた状況。	66	80409	7	10～ 29
2017	7	8～9	工事現場事務所横で、バックホウのアタッチメント交換時に、アタッチメントの連結金具が未固定であった箇所に手が当たったために金具に挟み負傷した。	25	30107	7	10～ 29
2017	7	22～23	工場構内にて、ポジショナー（高さ約1m）メインフレーム裏面仕上げ溶接作業中に床面に降りる際、左足をブラケットに掛けたが、掛かりが浅く滑って後方に倒れ、左手でパイプをつかんだが支えきれずに、後方のブラケットにヘルメット後部を打ちつけた	32	11301	2	1000 ～

			後、ヘルメットバンドとスクリューが接触、床面に臀部を打ちつけた。				9999
2017	7	22~23	派遣先内において、ポジショナー（高さ約1m）メインフレーム裏面仕上げ溶接作業中に床面に降りる際、左足をブラケットに掛けたが、掛かりが浅く滑って後方に倒れ、左手でパイプをつかんだが支えきれずに、後方のブラケットにヘルメット後部を打ちつけた後、ヘルメットバンドとスクリューが接触、床面に臀部を打ちつけた。	32	170101	2	30~ 49
2017	7	9~10	工場内でパイプの溶接・切断作業中に工場内を走行していたフォークリフトがパイプに接触したため、パイプがずれて両足ふくらはぎに当たり負傷したものである。	37	30199	7	10~ 29
2017	7	12~13	工場内において前処理のため、品物の入った箱を持ち上げた際に腰を痛めた。	61	30199	3	10~ 29
2017	7	10~11	当社置き場において、ダンプに積んである二次製品（側溝蓋、縁石等）をバックホウに吊って荷下ろしをしていた際、手元をしていて地面に下ろしたところ、誤って指を下敷きにしてしまい、自力で引き抜いたところ、右手中指先端の皮と肉がめくれ出血した。	57	30199	8	30~ 49
2017	7	9~10	道路工事現場で路面切削作業中にバックホーで路面切削機の後方で舗装版を取り壊す作業中に後方確認をせずに、バックホーを後方に動かしてしまい、作業員の両足を轢いてしまった。右足の甲を骨折・左足は足首周辺を打撲させてしまった。	26	30106	7	10~ 29
2017	7	16~17	5差路横断歩道付近にて、バックホーが置き場へ戻る途中、停止したため他の警備員と片側交互通行をしていた。5差路、横断歩道があり、夕方、自転車の通行もあるため、バックホーの運転手も下車していたので、重機に近づき片側交互通行をしていた。後進する合図もなく、後退してきたバック・ホーに轢かれ死亡した。	70	170201	7	10~ 29

2017	7	11~12	会社前駐車場でバックホウのバケツ交換のためピンをはずすなどの作業中にアーム部分が動きバケツの上に手を置いていたために挟まれる。	64	30309	7	1~9
2017	7	16~17	他作業員3名と流路工の玉石敷設時にベッセルを斜めに傾け、玉石を転がしながら作業していた時、意図しないタイミングで玉石が落ちてきて左手に当たり受傷した。	53	30199	6	10~29
2017	7	14~15	22トン送電鉄塔基礎工事現場で、スライドアーム式バックホウ（0.45?級）の点検作業中、作業員がスライド部固定ピン箇所を手を添えた状態に気付かず重機運転者がスライド部分を稼働させたため、作業員の左手（人差し指）が挟まれ負傷した。	47	30199	7	1~9
2017	7	12~13	作業場内にて（相手方）が重機操作で廃棄物をフレコン袋に詰め込む作業をしている時（被災者）はフレコン袋から廃棄物のはみ出ているのに気付き、左手でフレコン袋の中へ押し込んでいた。（相手方）は（被災者）の作業がフレコン袋に詰まった廃棄物が死角になり見えず、十分に確認をしなかったためそのまま重機の爪をフレコン袋に差し込み（被災者）の左手を挟んでしまった。	47	150102	7	10~29
2017	7	9~10	工事現場で、掘削スクリー引き上げ時、小ワイヤーがスクリーに巻き付き破断し、そのフックが落下した。その際、下でスクリーの泥落とし作業中の被災者のスコップを持つ、左腕に当たり負傷した。	63	30201	4	1~9
2017	7	15~16	解体工事現場にて重機オペレーターが0.4フォークで木材（9cm角長さ3m）の積込作業をしていたところ、木材が半分に折れ、近くにいた手元作業員の背中に当たり、肋骨を1本骨折した。	56	30201	4	10~29
2017	7	15~16	自社倉庫で作業中、バックホーを移動させ、坂にかかった時にバックホーが上下に激しく揺れ、前方へ飛ばされ頭部より落下した。	52	30209	1	1~9
			重機を使つての作業中、重機を前進させようとしてオペレータが「前進するよ」と声をかけ「はい」と返事をする。（被災者）そ				

2017	7	11～ 12	の合図をもとに重機をゆっくり前進させたらまだ近くにいて、身体をよけきれずにケガをした。オペレータは左側に穴があった為、そちらに気をとられていた。	41	30110	7	1～9
2017	7	10～ 11	カート脇の法面整形の作業中に、法面上部の作業を行うため（約2.1m）、法面をミニユンボでのぼって行き、頂上付近に差し掛かったときにキャタピラーが滑り、機体を修正しようとしたときにユンボが左方向に横滑りし、そのまま横転した。	68	30109	1	10～ 29
2017	7	14～ 15	機材センター整備棟内で、ボーリングマシンのスピンドル部シリンダーを回転させて横にし、パッキンを交換後、スピンドル部を垂直に戻そうとしたが固結していたため、被災者が工具を使用せずに右足で蹴ってスピンドルを回転させようとしたとき、足を踏み外し、ボーリングマシン架台と回転してきたスピンドル部シリンダー下部に右足を挟まれた。	65	11702	7	1～9
2017	7	14～ 15	取付道路の舗装作業中、A氏は、ガスバーナーで炙ってもらいながらのコテ作業中であったため、バーナーの音でバックホウの音に気付かなかった。B氏は、バックホウを使用し路盤の修正を開始し、後方確認を怠った。その結果、キャタピラでA氏の右足を巻き込んだ事故である。	37	30106	7	1～9
2017	7	16～ 17	バックホウのオイル点検中にバランスを崩し、バックホウの上から飛び降りた。片足を着地したが、下がコンクリートであったため、左足首を骨折した。	75	30309	1	1～9
2017	7	11～ 12	高速道路にて、走行車線上の舗装完了後、バックホウについて合材をオペレーター1人、清掃員1人で清掃していた。清掃員は、草すきを右手で持ち清掃を行ったが、草すきで除去出来なかった合材を左手で取り除こうとした。しかし、オペレーターは、右手が離れたために清掃作業が完了したと思い込み、操作をしたため、ブームとバケットの接触部分に清掃員の指が挟まれ負傷した。	45	30106	7	1～9

2017	7	16～ 17	会社敷地内で同僚にユンボのオペレーション指導をしていたとき、同僚がユンボ運転中に、被災者が何かの拍子に躓き、左足をユンボに踏まれ、親指以外の指が粉碎した。	65	80109	7	30～ 49
2017	7	14～ 15	通信用管路新設工事において、道路仮舗装施工時（転圧作業中）に、後退してきたバックホウのキャタピラに左足踵を挟まれ負傷した。	34	30301	7	1～9
2017	7	16～ 17	工事現場で、舗装版をバックホウを使って剥ぎ取り中、舗装版と水路に足を挟まれた。	43	30106	7	10～ 29
2017	7	16～ 17	当社資材置場にて、ダンプ運転手がドラグショベルを用いて、ダンプトラックに碎石を積込んでいた。積込みを完了し、バケットを地上に下ろしたところ、バケットを下ろし過ぎたため、ドラグショベルのクローラー前方が上昇した。その際、近くに立って待っていた他のダンプ運転手(被災労働者)が、碎石に足を滑らせ、右足がクローラーの下に入り込んでしまった。ドラグショベル運転手はそのことに気付かず、下ろし過ぎたバケットを正常な状態まで上昇させたところ、クローラーが地面に降下し、被災労働者の右足を踏んで負傷させた。	59	40301	7	10～ 29
2017	7	9～ 10	自社工場内で、移動のため重機（0.1?ミニユンボ）を操作中、重機から降りる際にキャタピラから排土板へ移ろうとして不注意で足を滑らせた。排土板の隙間に右足が入り、バランスを崩して地面に倒れ込み、右足を捻った。	47	150102	1	10～ 29
2017	9	9～ 10	保育園の上にある道路脇の林の工事現場で、バックホウ（重機）に乗り排水溝を造る工事の作業中、約5m下の保育園建物と崖の間の保育園敷地内に転落し、バックホウの下敷きになり搬送先の病院で死亡が確認された。	58	30199	1	1～9
2017	9	13～	造成地現場に市道より進入路の作業中、鉄板を敷く為に、バックホーにて釣り上げた際に少し揺れて、バックホーの右横に立っていた従業員の左足人差し指に怪我をさせてしまう。排土壁板に接	45	30109	7	10～

		14	触、被災者が危険過ぎる位置にいた、バックホーの運転者の慣れと安全確認の怠慢による。					29
2017	9	14～ 15	重機置場内にて足回り洗車のため、バックホーのキャタピラを回している最中、シュープレート表面にこびり付いた土をボールを使用して落とそうとしたところ、シュープレートに空いている穴にボールがはまり、抜こうとしてすぐに手を離さなかった為、ボールとキャタピラの間指先を挟み負傷する。	63	80409	7		10～ 29
2017	9	9～ 10	バックホウオペレーターが、セーフティレバーを解除せずに前面ガラスを上げた際、オペレーターのポケットに操作レバーが接触、バックホウが急旋回して脇を歩行中の作業員に接触、資材とバケットの間に足がはさまれ、かかと骨を開放骨折した。	70	30201	7		10～ 29
2017	9	11～ 12	河川右岸の間知天端にて伐木・除伐等の作業を委託していた、原材を河床に投下し、河床陸地に引き上げ、トラック積み込みをする為、小型バックホーを使用し作業を行っていた、小型バックホーが河床陸地部移動中、一部地盤の安定しない個所で、重機がバランスをくずし、転倒した、その際、被災者は重機より飛び降り水面に着水したが、傾き転倒してきた重機に水中で挟まり受傷した。	50	30107	1		1～9
2017	9	10～ 11	RC進4F建物K棟建屋解体後、K棟コンクリートがら集積場において、0.7tバックホウにマグネットアタッチメントを取り付けコンクリートがらと鉄筋くずの仕分け作業をしていた。被災者は、コンクリートがらの中にゴミを見つけ、ゴミを取ろうと重機作業半径内に立ち入った。重機オペが被災者に気付いていない状況で、旋回およびアームを伸ばした事により、マグネットアタッチメントが被災者の脚に接触し、被災した。	53	30309	6		1～9
2017	9	15～ 16	重機（タイヤショベル）の現車確認中、高さ約2mのボンネットから転落、すぐに病院に運ばれた、結果、左急性硬膜下血腫、脳挫	50	80109	1		1～9

			傷、昏睡状態になった。				
2017	9	14～ 15	現場の地盤改良工事中、鋼管移動作業をコンボが行っており、コンボのバケツが鋼管の端を押さえた、その時、近くに立っていた本人の右手甲に鋼管がはねて、負傷した。	28	30202	4	10～ 29
2017	9	18～ 19	ショベル上部にてエンジン始動不能点検ショベル上部で立ち上がり、方向転換した際足を滑らせ落下、辺りが暗く着地点が見えずにショベル下部アームに足が挟まった。	24	80409	1	10～ 29
2017	9	16～ 17	医院クリニックに新築現場にて埋戻しの過程で砕石敷均し作業をしていた所、左旋回してきたコンボのバケツが本人の右側面に激突されてしまい、その反動で倒れた下のアンカーに左側面が接触し負傷した。	66	30201	6	30～ 49
2017	10	14～ 15	住宅新築基礎工事現場で、ミニショベルを使い一輪車へ砕石を移す作業中、ミニショベルのバケツが被害者の側頭部をかすり、その拍子に重心を失い仰向けに倒れ負傷した。	49	30202	2	1～9
2017	10	15～ 16	大型ブロック設置作業の際、玉掛け作業を終えた被災者が、重機の作業範囲内に入ってしまう、作業中の重機のバケツ部分に接触した。	57	30111	7	30～ 49
2017	10	11～ 12	農地集積加速化基盤整備工事の作業中、不整地運搬車荷台の上にコンクリート側溝が積まれている状態で、荷台から重機（0.25 m ² ）バックホーで側溝を下ろす作業中に、2人の作業員が荷台に乗り、当人は重機オペレーターに対して右側にいた。左側の作業員は合図に従い離れていたが、当人は合図が見えなかったため合図に気づかず、コンクリート側溝を押さえていた。そのまま側溝をスライドさせてしまい、指を不整地運搬車の後部ドアに挟まれた。	62	30109	7	1～9
2017	10	15～ 16	新築工事における地盤調査の作業をしていた。専用機械の操作中、誤って機械に左手中指を挟み、事故が発生した。	20	30201	7	50～ 99

2017	10	9～ 10	解体現場にて養生の為、ブロック塀際の土間コンクリートの上に鉄板を敷設していた際、バックフォアのバケツにて鉄板を叩いていた。叩いていたバケツが滑り、ブロック塀に激突した際に誘導していた被災者の手が挟まれて負傷した。	29	30309	7	30～ 49
2017	10	9～ 10	PBφ150ガス管新設工事において、被災者が既設管を手握りで確認する際、重機で手前を掘り下げよう指示をしたが、誤って重機のバケツが被災者の右手甲に接触し、握っていたスコップとバケツの間に手が挟まれ、右手の甲を負傷したもの。	55	30209	6	1～9
2017	10	9～ 10	地盤改良現場にて、固化材のフレコンの荷卸しのため、ダンプ車の荷台上で玉掛け作業を行っていた。フレコンをバックホー車のフックに玉掛けした後、安全な場所に退避する前に吊り上げ、移動させたため吊り荷に接触し、荷台から転落した。	53	40301	6	10～ 29
2017	10	7～8	碎石場にて、重機の走行用ベルトが外れていたため、修理をしていた。走行用ベルト単体でもかなりの重量があるので、別の重機のバケツの爪の部分で走行用ベルト及び作業で使用するワイヤーロープを引っかけて旋回・移動していたところ、ワイヤーロープが落ちたので、被災者が拾おうと重機に近づいてしまった。重機運転手は運転席から被災者が見えたため、旋回を止めたところ、停止する衝撃でバケツから走行用ベルトが外れ落下し、被災者の頭部を直撃した。	61	20201	4	10～ 29
2017	10	9～ 10	埋立工事の岸壁で吸い出し防止材（エンドレスマット W=300m/m、L=3m）の取付作業をしているとき、バックホー（0.14?）がエンドレスマットの取付位置の調整のために、それをバケツで押さえていた。調整が終わったので、被災者が吸い出し防止材を右手で押さえた。バックホーのバケツで離そうとしたときにそれが被災者側に動き、コンクリートとバケツの間で右手示指の先端を挟んだ。	48	30106	6	1～9
			重機置き場で同僚とバックホウのバケツのメンテナンス作業中				

2017	10	8～9	に、ピンが入りづらかったため、左手中指でピンを差し込む穴を確認した際バケットがずれ、左手中指を切断した。	57	30106	7	10～ 29
2017	10	16～ 17	業務中の被災である。台風明けの養鶏場の作業が一段落したあと当工場の外にある鶏舎の糞をショベルカー（タイヤ付小型特殊自動車）のパケットを利用してその鶏舎の奥まで固めておく運転作業を繰り返していた時の被災である。バックをしながら踏み込んだフットペダルに足が絡まったか、そのまま当該敷地外の農道脇の溝に落ち込んでしまう被災となった。	56	70101	1	10～ 29
2017	11	13～ 14	グラップル重機を2名で点検作業中に、相手作業員が、誤って作業レバーに触れ、プロセッサヘッド（木材を掴む部分）が重機本体方向へ作動してしまい、被災者を直撃した。その反動で頭部を重機本体にぶつけ裂傷し、地面に倒れた際に衝撃で左手首骨折及び背骨を圧迫骨折した。	64	60201	6	1～9
2017	11	14～ 15	モデル住宅の外構工事で路盤の掘削作業中、バックホーの運転手の防寒着のポケットに旋回レバーが入り込んだことにより誤って作動し、被災作業員を住宅の壁とバックホーのバケットで挟んでしまい、上半身の圧迫と右耳もの裂傷の怪我を負わせてしまった。	67	30199	7	1～9
2017	11	11～ 12	被災者を含む5名でUV管布設の為、道路の法面を深さ1.3m掘削し、シーティング（簡易土留め：高さ2.5m、幅1.2m、長さ3m、重さ1.6t）を設置する作業をしていた。被災者がシーティング上に乗っていた泥を落とすため下に置いているほうきを取ろうと右手をシーティングにかけ左手を伸ばしたところ、右手の指先が0.45tバックホウで設置中のシーティングと設置済みのシーティングに挟まれ被災した。バックホウからは死角になっていた。	39	30109	6	1～9
2017	11	14～	太陽光発電設備工事内において、バックホウで法面整形をしている時に、バケットを左に旋回させた際、作業員が重機の作業半径	25	30199	6	30～

		15	内に立ち入ってしまい、作業員の左足とバケットが接触し、足の甲と小指を骨折した。					49
2017	11	13～ 14	被災者は、バックホウ作業が終了し、エンジンが停止したことを確認後、フレコンに取り付けるタグに記入する内容確認のためフレコンの中ほど（地面+50cm）に記載されている記号を順番に確認しながら前屈みの下向き体勢でバックホウの近くを移動していた。一方オペレーターはバックホウから降りようとして扉を少し開けかけた時、後方から近づく被災者に気付き半開き状態を保持して（取っ手を持って）待機していた。被災者はその扉に気付かず、立ち上がろうとした時にバックホウ扉の角にヘルメットごと頭をぶつけ負傷したものである。	68	30309	3		100 ～ 299
2017	11	16～ 17	放課後等デイサービスの活動中、利用者支援を行っていたところ、利用者同士のトラブルでイライラしていた利用者に体当たりをされて蹴飛ばされた。	23	30209	7		1～9
2017	11	13～ 14	園児が片付けをし帰る為、保育室出入口で待っている時、1人の子の忘れ物が机にあることに気付いたので知らせる為、駆け寄ろうと右足を一步踏み出した。そこへ向かってくる子と当たりそうになったのを避けた際、右足つま先が床に引っ掛かり左前方へ転倒し負傷したものである。	54	150102	2		50～ 99
2017	11	10～ 11	病室にて、床にスタッフと共に転倒している患者をベッドに戻そうとしている時に、そのスタッフに、ベッドに戻すための力が足りなく1人で戻す状態になり、腰痛が出現した。	73	30301	6		1～9
2017	11	17～ 18	配水管整備工事に係る道路の交通整理警備において、車や歩行者の交通誘導をしていた為、後方からバックしてきたバックホーに気付かず、右足ふくらはぎ付近をバックホー右後方のクローラーに踏まれ負傷したものである。バックホーの運転者も日没を過ぎ視界が悪かったことに加え、運転席から右後方が死角となり、後方で警備していた当該労働者を認識していなかったと思われる。	74	170201	1		10～ 29

2017	11	9～ 10	被災者（以下「甲」）当日の就業場所である工事現場にて、2tトラックをバック誘導していた時、停止していたショベルカー（以下「乙」）が後進して、乙キャタピラ後部に甲の左足首上部が接触し、甲は負傷した。	65	170201	6	100 ～ 299
2017	11	16～ 17	パワーショベルが左側方向約45～60度回転時に、右側後方部で接触、倒れたものと思われる。回転半径内の確認不足による接触であり、今後パワーショベル等機械の作業範囲内の立入禁止と、オペレーターの確認を徹底する。	70	150109	6	1～9
2017	11	12～ 13	埋め戻し作業の際、後進したバックホウに接触し、左足をバックホウのキャタピラで踏まれる。	33	170201	7	—
2017	11	15～ 16	水道工事を行っていた。埋戻し作業時にダンプから碎石を荷卸した後に、ユンボにて碎石を押そうとバックしたところ、ユンボの後に作業員が立っていたところ接触した。	41	30201	6	1～9
2017	11	11～ 12	平坦な場所になっており掘削作業を行っている時に、重機が旋回しようとして旋回時に周辺を通ろうとして重機のバケツが腰部付近に当たり転倒した。すぐに本人に確認をしたが大丈夫だと申告してきたので当日はそのまま作業について終了したが、翌日痛いとのことで本人が病院に行った。	48	30201	6	—
2017	11	13～ 14	置場での重機アタッチメント交換作業中、左薬指を機械に挟み怪我してしまった。	28	30209	7	1～9
2017	11	9～ 10	私道（2.0m幅）アスファルト道の水道管理設工事で、重機（0.05?バックホー）を使用し掘削中、重機の後方で市道の車両安全確認をしていた際、重機の運転者が、後方の安全確認を怠り、重機を後方に移動してしまい、左足の指4本（親指以外）が、重機の下敷きとなり負傷した。（安全靴不着用）	62	30110	7	10～ 29
2017	11	8～9	池の堤体で、作業スペースを確保する為に、バックホーを移動している時に、バランスを崩して、バックホーごと転倒して右手首を骨折及び腰部を圧迫骨折した。	40	30106	1	1～9

2017	11	16~ 17	当日、クレーン設置個所の盛土作業であり、盛土材の敷均しを行っていた。作業中のバックホーが前進したため、当該作業員がバックホーの後方に立ち入り敷均し作業を開始した。その直後バックホーが後退するのを確認したため、誘導員は避難合図を行ったが間に合わずバックホー右後方と接触し転倒した。痛みを訴えたため、直ちに病院に搬送した。診察の結果、右足首の骨折と診断された。	65	30105	6	10~ 29
2017	11	10~ 11	事業場で畑の土をユンボでトラックに積み込む作業を行っていて、土に交じった雑草を取り除いている作業をしていたところ、アームが旋回してバケットが前頭部に当たり負傷した。	75	60101	6	10~ 29
2017	11	11~ 12	整理事業地内の道路新設舗装現場にて、路盤碎石敷均し作業中、前方方面造成のため重機を後退させていた時、重機周辺で敷均し手作業を行っていた作業員が重機の接近に気付かず、重機のキャタピラが作業員の足に当たり、作業員は脛骨を骨折した。	69	30106	6	10~ 29
2017	11	8~9	新築工事の工事現場において、埋戻し用の通路整備作業中、バックホウにて敷鉄板1.2m×2.4m (519×7) を移動しようと、所定の位置に配置する際、敷鉄板右角が先に地面に接触し、その反動で左側が煽られた為、重機オペレーターが立て直そうと一度奥に敷鉄板を寝かす作業を行った。その際、重機オペレーターより被災者が右側に居り、重機ブームと敷鉄板の死角になり、重機オペレーターより被災者が見えていなかった。被災者も危険を感じ後向きに後退したが転倒し、敷鉄板と地山に左足首辺りを挟まれた。	66	30209	7	1~9
2017	12	11~12	中間処理工場内にて、北ヤードの残土ステージから、重機を下ろそうとして、腕を伸ばして降りる体勢をとり、降り始めたとき、重機キャビン内で、被災者自身がその重機の傾斜により体のバランスを崩して、窓側へ倒れかけた。その際、重機のレバーが体の一部にあたり、そのレバーの運動により重機のアームが旋回し	64	150102	1	100 ~ 299

			た。その結果、下降中の重機がバランスを崩して転倒し、その際、被災者は頭と腰部を打ち被災した。				
2017	12	13~14	停車していたダンプが徐々に坂を下り、前進してきたコンボとの間に挟まれた。	50	30105	7	1~9
2017	12	9~10	低圧ガス管取り替え工事において、被災者が掘削機の排気による地先の生垣の枯損を防止するためのコンパネ設置が終わったため移動しようとしたところ、被災者の進行方向に掘削機がバックし、掘削機のキャタピラに足を轢かれ負傷した。	29	30199	7	10~ 29
2017	12	9~10	工場内で、ショベルで砂を掬うときにタイヤが浮き、その反動で天井に頭をぶつけた。	67	10901	3	10~ 29
2017	12	8~9	屋外の荷捌き場にて、重機（マグネット式バックホー）を使用し、トレーラーに貨物を積む作業を行っていたところ、重機の誤作動により、重機のアームが下がり、その反動で重機が傾き、元の状態に戻った際に衝撃があり、中にいた被災者が怪我をした。	48	50201	6	30~ 49
2017	12	13~14	資材置場にて、矢板およびH鋼（0.3m×0.3m×2.5m）をバックホー（0.25?）を使って移動するとき、左足甲を負傷した。端太角の場所に段差があったため、足がそれより高い所にあったことに気づけなかった。	63	30107	7	10~ 29
2017	12	8~9	道路災害復旧工事の現場で、天端調整コンクリートの打設作業を3.5tのバックホーで、0.1?のコンクリートホッパーを吊り下げ、右前方の生コン車から左後方の投入箇所へ旋回打設中、コンクリートホッパーが機体の真横に来た辺りでバランスを崩し、被災者は5.5m下の仮設作業道に、バックホーは更に約20m下に転落した。	59	30106	1	10~ 29

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to：https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_06.html